

活動名 外国人留学生と平川地域における 青少年健全国際交流活動	団体名 国際交流ひらかわの風の会 地域 山口県山口市 代表者 会長 中村 幸士郎 支援金額 30万円
活動概要 <p>私たちは、地域と留学生家族のパイプ役を担うことを目的に、マツダ財団の支援のお陰で、様々な活動を通して、生活に密着した異文化理解や国際理解を相互に深めることや、地域の安心・安全にも繋げていくなど、住みやすい地域づくりを推進することができた。</p> <p>主な活動としては、平川地区民全体との交流として、地域の恒例行事(4月平川地区民運動会、8月盆踊り、11月平川まつりの出店)による参加促進し、留学生と地域との交流促進を図った。また、新たな活動として、「留学生とのテレフォンパートナー制度」による住民との交流を図る一方で、留学生と地域の住民を対象に、「伝統的な農耕文化体験交流事業」では、揉み蒔きからしめ縄づくりまでを体験や、東大寺再建の俊乗房重源上人の史跡めぐりでのそば打ち体験、石風呂体験は、体験を通じて、日本文化の誇りや価値を見直すことなど、各方面から高い評価をいただいた。留学生などを対象にした自転車交通安全教室も実施し、地域の安心安全にも貢献している。</p> <p>◆実施時期 通年 山口市平川地区ほか</p> <p>◆参加人数 15人～100人</p> <p style="text-align: right;">参加総人員延べ 1,200名</p>	



平川地区は、外国留学生とその家族や外国人教員らが居住する多文化共生地域



「留学生との米や野菜作りによる地域交流」日本の伝統的な農耕文化体験事業を実施



「しめ縄づくりと餅つき体験」地域の農家と連携して、伝統的な注連縄づくりと餅つきの体験会を実施



「茶道体験と留学生地域送別交流会」留学生家族ら69名が参加し、抹茶体験会

◆実施に伴う効果

- ・留学生家族から、平川地域が本当の意味で住みやすさを実感できるようになったとの声が多数あった。
- ・地域の人たちと留学生家族が、スーパーやコンビニなどで気軽に声掛けができる情景を見ることができるようになった。留学生家族が見知らない地域の人たちにも話しかけるようになってきた。
- ・留学生の自転車のマナーがよくなってきた。自転車事故が減少してきている。
- ・参加した日本人学生から、日本文化の魅力や奥の深さを知るキッカケとなり、日本人としての誇りを持つようになったと感想レポートに多数あった。海外留学や青年海外協力隊に参加した学生、また、それを目指そうとする学生も出てきた。
- ・山口大学留学生支援室から、新規留学生生活説明会(年2回)のカリキュラムに、風の会の活動説明タイムをいただけるようになったことで、活動参加者が飛躍的に増加するなど、大学側の理解度が深まった。
- ・多文化共生地域として、モデル的なケースとなりつつあることから、山口大学副学長(工学部)から、工学部のある宇部市に、当会の活動を紹介し、第2、第3の風の会をつくりたいと要望されている。
- ・地域住民に、当会の活動が広報紙等で紹介されるなど、理解が深まってきたことで、当会の諸行事に参加したり、積極的なお手伝いをいただけるようになってきた。
- ・山口大学本部から、大学の推進する地域連携・国際戦略の意見交換の場が設定されるようになった。当会メンバーの意見が少しずつ反映されるようになった。
- ・イスラム系留学生家族の日本での初めての出産のサポート(医師との医療通訳、妊婦の送迎等)を、当会スタッフ全員で連携し寄与した。留学生から安心安全をイメージされ、絶大な信頼をいただくことができた。

◆苦勞した点

- ・参加留学生が固定化する傾向にある。
- ・交換留学生等は、1年で帰国するので、更に継続し深める必要を感じている。新年度は工夫を加えて、新たな展開を図る考えている。
- ・通年で事業を展開するにあたり、東アジア留学生たちは金銭面で苦しいため、参加負担金を安価にしてあげたいが、当会スタッフ(会費とは別)の負担が大きくなっている。マツダ財団の支援は大きい。参加しやすくさせるためにも、学生たちの負担を軽減したい。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・平川コミュニティ推進協議会という組織は、自治連合会やPTAなど地区内23団体で構成され、それぞれの団体の長が協議会会員となって、平川地区の町づくりや地域振興を進める活動をする団体ですが、外国人が300人以上居住している同地区において、多文化共生社会は避けて通れない中で、山口大学との連携が益々重要になってきている。その一員として参画したいのだが、同協議会役員の理解が薄い状態である。
- ・地域でできる留学生家族の生活支援対策や育児支援対策等について、行政・地域・大学の役割などを同じ土俵で協議推進していかなければならないと感じている。今後、当会の役割として、留学生たちを交えて、課題を整理し、関係機関等へ提言していけるように取り組みたい。
- ・帰国留学生とのネットワークを構築し、グローバルに、末永く国際理解や国際交流が図れるようにしていくことが大事であり、本音の交流を活発化したい。インターネットの活用やスタディ・ツアーも計画する。
- ・地域における青少年(大学生、地域住民)に、国際理解を一層推進し、留学生との交流の中心的な役割を担わせ、多文化共生のモデル的な地域にしてきたい。そのために、新年度から風の会学生部会(案)を設け、養成していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・山口市内の大学、留学生、地域住民、関係機関などから、風の会の活動が浸透したことで、活動に理解の輪が広がり知名度が高まったことで、他団体からの誘いや交流が活発化し、活動にも弾力的な展開を図ることができた。
- ・これらの諸活動に参加した留学生たちから、帰国前に、多くの思い出と日本・日本人に対する意識の変化(好意的)があるとともに、感謝される。帰国後、親族や同僚、後輩たちに日本での経験を伝えたいと、涙を流してくれたことに感動しました。参加した地域住民からも同様に感謝されるなど、地域における国際交流の重要性をあらためて認識しました。
- ・マツダ財団の支援のお陰で、活動も飛躍的な展開ができたことに感謝申し上げます。